

ふくおか地域づくり

報告：福岡県地域づくりフォーラム(09.03.20)

第1回ふくおか地域づくり活動賞



“笑顔”が一番

福岡県地域づくりフォーラム

～10年後の地域づくりネットワークを考える～

口主催：地域づくりネットワーク福岡県協議会（事務局：福岡県企画・地域振興部広域地域振興課）

口実施主体：地域づくりネットワーク福岡県協議会北九州ブロック会議 ◇平成21年3月20日 於：パークサイドビル9Fイベントホール



●基調講演
食環境ジャーナリスト
金丸 弘美 氏



口会長あいさつ
地域づくりネットワーク福岡県協議会 会長(県企画・地域振興部長)佐藤 清治 氏



口開催地代表あいさつ
地域づくりネットワーク福岡県協議会 北九州ブロック会議 会長 城水 悦子 氏

このフォーラムは、地域づくり活動を実践している方々の情報交換や交流を目的として開催。当日はNPOや行政等から100名以上が参加。開会後第1回ふくおか地域づくり活動表彰式（6ページ参照）が行われ、その後食環境ジャーナリストの金丸弘美氏の基調講演、5人のブロック代表によるトークセッションと続く。会場は熱気でいっぱい。夜はナイトツアーで気分は最高潮に。この日は参加者にとって熱い1日となった。

《基調講演(概要)》

これまで13年間全国800か所の地域に出かけて、講演やアドバイスをしている金丸氏。総務省地域力創造アドバイザー11人の1人として、地域に出かける回数は年間150にも上る。現場を大切にする金丸氏の講演は、地域づくりを実践する参加者の心を引きつけ、あっという間に1時間が経過。講演概要は次のとおり。

長崎県の小値賀町には、海外から2千人の子ども達がやってくるようになった。すばらしい風景や自然が残り、理想的な日本がそこにあるからだ。また大分県安心院町では、村が残って自然が豊かだからという理由で、今では年間6千人の修学旅行者が来町。今、これまであまり注目されなかった、自然豊かな地域が力を持ち始め、外から人を呼ぶようになった。

行政、NPO、地域などがそれぞれ連携し、豊かな自然を生かし、地域にあったやり方を模索し、実践しているところが今、注目を浴びている。「商店街が寂れ、観光地に人が来ない。」こういったことを口にする昭和30年代の流れを守っている人達が、今ダメになっている。以降では地域が連携した地域づくりの成功事例として、3事例を紹介したい。

まずはコウノトリが戻ってきた兵庫県の豊岡市の事例。鳥が絶滅したのは乱獲、巣がある松の木の伐採、餌がある田の乾田化が主な原因。全国農家の平均年収は500万円。年金や農業外収入を除けば残りは150万円。それからガソリン代等を引けば手取りは70万円。これでは跡継ぎが育たない。

そこで市は、5年間で有機農業へ転換する農家に対し、300坪当たり4万円の補助金を投入することにした。これは放鳥された5羽のコウノトリを守り、増やすためである。農家は当初、コウノトリは稲を踏み荒らす害鳥だと思い、石を投げつけていた。しかし役所が調査を行ったところ、鳥が稲を踏むのは700歩に1歩の割合だった。以後は農家も協力し、今では豊岡市の15%の農地で有機農業が展開中。

市では米の値段は21,600円/俵で、通常の2倍。米はコウノトリのことがわかる人に販売したいという思いから、JAには流さず、大阪などで販売。コウノトリのお陰で観光客は48万人/年になった。今では毎週のように視察が訪れるようになり、対応するのに忙しくなったため、今年の4月から視察代として2万円徴収予定。視察に行く方は3月までに（笑）。

2例目は徳島県上勝町の話。おばあちゃんが葉っぱで月80万円を売り上げている。朝、パソコンを見て、もみじや柿の木など、売れる葉っぱを予測し、山へ取りに行く。種類は50種類にも上る。柿の木は、年間50万円の売り上げで、葉っぱは約2億6千万円。70人の高齢者が月60万円を売り上げる。ここでの視察は、研修費として1人当たり千円徴収。セミナーでは3万円。夜のご飯は3,800円で葉っぱがたくさん付いてくる。ごみは何と32分別である。

3例目は長野県飯田市の修学旅行の誘致。修学旅行で田植えを実践。高齢者が中心となって、これまでに115校誘致。経済効果は80億円。修学旅行に来た人は、10年間で1万人にも。これを支えるのは地域でメニュー化している163のプログラム。これからの修学旅行は、観光でなく学習がキーワード。各種団体が連携してプログラムを提案していくことが大切。



●トークセッション

福岡県地域づくりフォーラム



コーディネーター：原賀氏

アドバイザー：金丸氏

齊藤氏

池浦氏

駄田井氏

日高氏

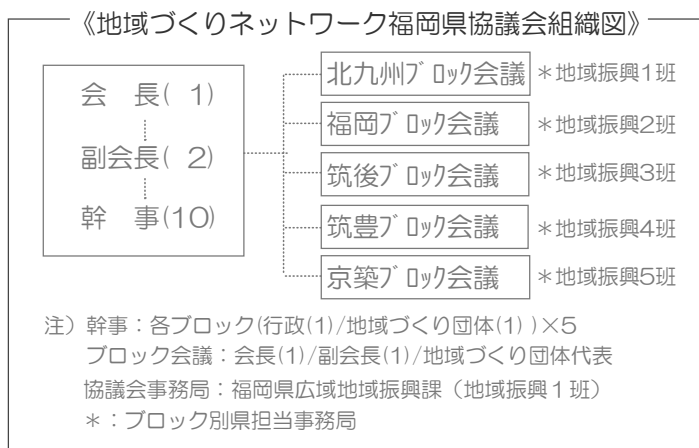
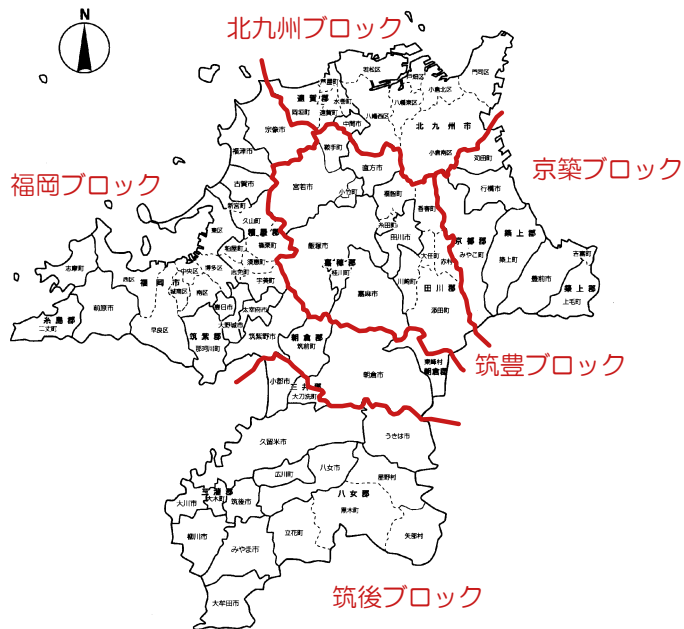
畑山氏

コーディネーター：今泉氏

パネリスト

ブロック会議が発足！

地域づくりネットワーク福岡県協議会では、平成20年度に組織を改編し、「北九州」「福岡」「筑後」「筑豊」「京築」の5ブロック体制としました。5ブロックは、県が推進する広域地域振興と同じエリアです。これによって各地の地域づくり団体と県・市町村との協働の可能性がさらに広がり、身近な地域づくり活動の活性化が期待されます。



〔北九州ブロック会議〕 H20.12.17 於) 西日本総合展示場



〔福岡ブロック会議〕 H21.1.7 於) 福岡東総合庁舎



〔筑後ブロック会議〕 H21.1.8 於) 柳川市 簡易保険保養センター



〔筑豊ブロック会議〕 H20.11/1 於) 筑豊ハイツ



〔京築ブロック会議〕 H20.12.19 於) 行橋総合庁舎



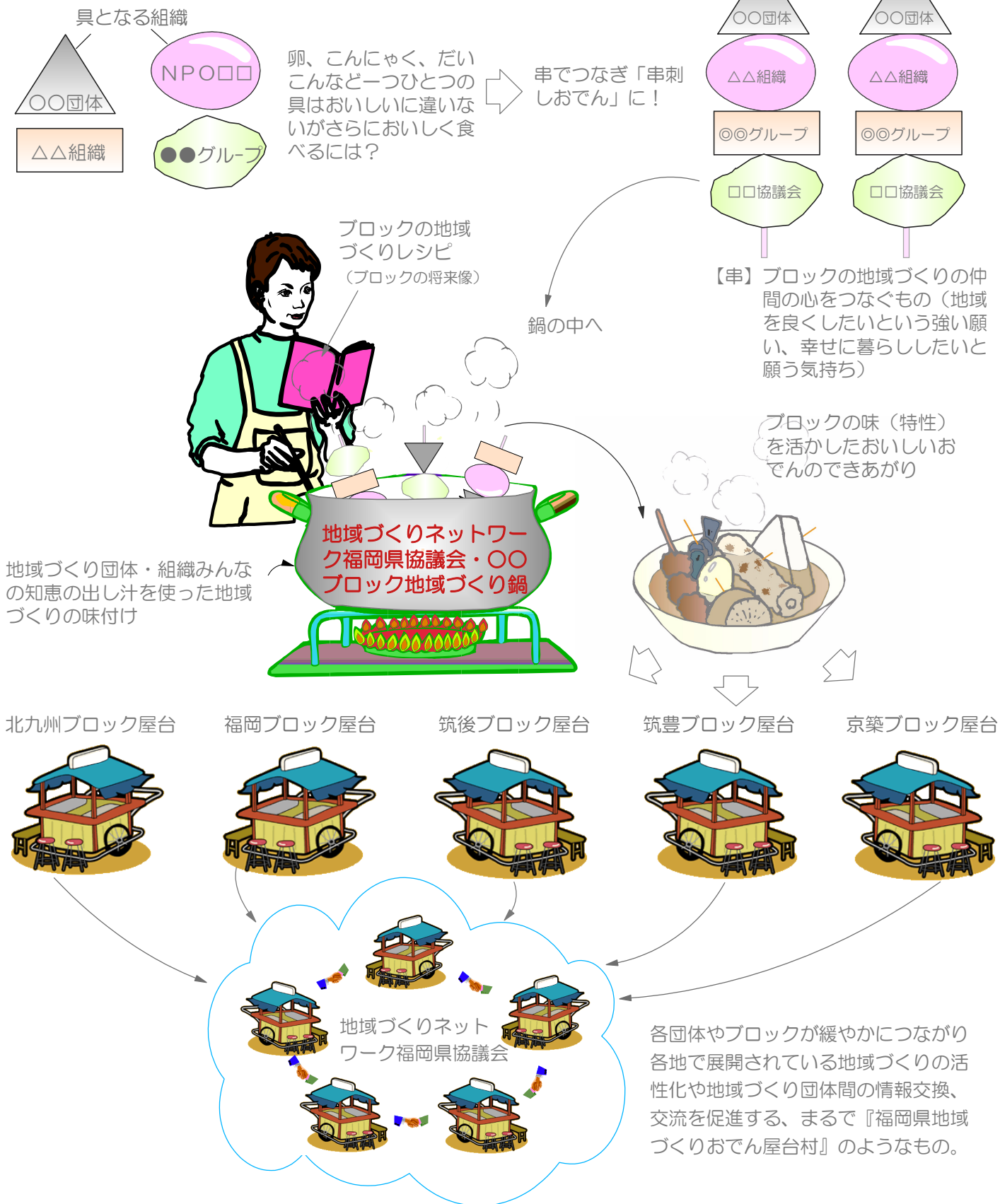
👉 ブロック会議は串差しおでん屋台のようなもの！？

～地域づくりネットワーク福岡県協議会ブロック内・外のネットワークイメージ～

串差しおでんとは、複数の具を1本の串でつないだもの。卵、こんにゃく、だいこんなどの一つひとつの具がおいしくなければ、串差しして料理してもおいしくはならない。うまさの原点は一つひとつの具、つまり素材にあります。

この考えを地域づくりに例えれば、具はまさに“地域づくり団体”。しかし地域づくり団体の現状を見てみると、資金不足、人材不足、情報の受発信不足、活動のノウハウ不足等の課題を抱えています。

また、目的は一緒でも交流、情報不足等からバラバラに活動しているケースも見受けられます。身近なブロック内の組織が緩やかな関係で結びつき、これらの課題を解決していくためには、お互いの得意分野や人材を共有し、ブロックの活性化に向け心を一つにすることが重要。これらのイメージは次のような串差しおでんに例えることができます。



👉 第1回 ふくおか地域づくり活動賞

本年度から「ふくおか地域づくり活動賞」が新設されました。この賞は、福岡県内の地域づくり団体の中で、特に活動状況が顕著である団体を顕彰するというものです。平成20年度は、グランプリ賞の筑豊ゼミをはじめ以下の団体に決定し、平成21年3月20日、北九州市パークサイドビルで開催された、福岡県地域づくりフォーラムの中で授賞式が行われました。

地域づくりフォーラム



地域づくりフォーラム



地域づくりネットワーク
福岡県協議会北九
州バイオネットワーク協議会会長



地域づくりネットワーク福岡
県協議会事務局

直方川づくりの会

はかた夢松原の会

地域づくりネットワーク福岡
県協議会会長

筑豊ゼミ

北九州バイオネットワーク協議会

うきは夢酔塾

地域づくりネットワーク福岡
県協議会副会長

●グランプリ賞〔知事賞〕：筑豊ゼミ

昭和63年から「開かれた大学、自立する筑豊」を標榜して始まった筑豊ゼミの修了者は、筑豊全域からの市民約1,500名にのぼり、筑豊の各地域で地域づくりの活動の牽引役として活躍しています。今の時代に必要な人材育成を行い、裏方で表には出てこないが、着実に地域づくりに貢献を続けている点が高く評価されました。

●特別賞〔知事賞〕：はかた夢松原の会

昭和62年から、松原の復元を一貫して活動の中心に据え、募金者総数4万人以上、総参加者数5千人以上と実に多くの市民や企業に支援・参加の輪を広げてきました。行政との連携を早くから築き、福岡県におけるボランティア活動を長年牽引してきた実績が高く評価されました。

●奨励賞〔協議会賞〕

北九州バイオトープネットワーク協議会／うきは夢酔塾／直方川づくりの会

【北九州バイオトープネットワーク研究会】

「平成竹取物語」と名付けた竹林保全活動を毎月第2土曜日に実施されるなど、環境の保全・修復のためにまず行動することに主眼をおいた自主的で地域に根ざした活動が評価されました。

【うきは夢酔塾】

地域の良さを見直し、住民の誇りとするため「つづら棚田」のすばらしさを紹介する活動を続けるなど、浮羽地域における地元住民の自主的な地域づくり活動が評価されました。

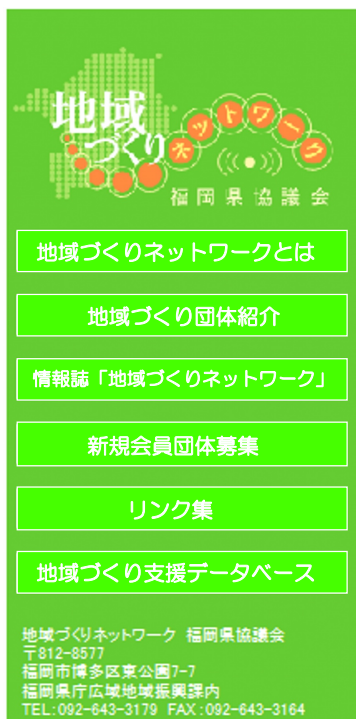
【直方川づくりの会】

遠賀川と彦山川を地域づくりの中心におき、多彩な環境体験事業を通じて、長年にわたり人づくり、まちづくりに貢献されてきたことが評価されました。



地域づくりネットワーク福岡県協議会のHP開設！

<http://www.chiikinet-fuku.org/>



福岡県協議会のホームページ「地域づくりネットワーク」を開設しました。ネットワーク会員団体の紹介を中心に、協議会からのお知らせ等、様々な情報を提供していく予定です。

地域づくりネットワークからのお知らせ

- 2009/03/10 ふくおか地域づくり活動賞が決定しました。
- 2009/03/05 「福岡県地域づくりフォーラム」への参加者募集
- 2008/12/12 「ふくおか地域づくり活動賞」の応募者募集を始めました。
- 2008/12/08 筑後ブロック会議が開催されます。(H21.1.8 開催)
- 2008/11/27 京築ブロック会議が開催されます。(H20.12.19開催)

地域づくり団体からのお知らせ (各団体からの情報をお待ちしております)

魅力あるまちづくり女性の会 【筑前町】
 特定非営利活動法人北九州青年みらい塾 【北九州市】
 特定非営利活動法人クリエイティブ・スローライフ 【行橋市】
 女性問題学習会 オオムタ 【大牟田市】
 長崎街道小倉城下町の会 【北九州市】

地域づくりネットワークとは

地域づくりネットワーク福岡県協議会の活動趣旨や事業内容を詳しく紹介しています。

地域づくり団体紹介

地域づくりネットワーク福岡県協議に属する団体の概要がわかります。

情報誌「地域づくりネットワーク」

地域づくりネットワーク福岡県協議会に属する団体取材訪問し、その活動等を紹介しています。

新規会員団体募集

新規に地域づくりネットワーク福岡県協議会に加入する場合の規加入申込書をはじめ、申込書記入要領、新規加入に当たっての市町村からの推薦様式等の必要書類がダウンロードできます。

リンク集

地域づくり団体全国協議会をはじめ、福岡県や地域づくりネットワーク福岡県協議会会員等のホームページとリンクしています。

地域づくり支援データベース

地域振興に関連した諸事業の制度や財政支援措置を簡潔にまとめたものです。

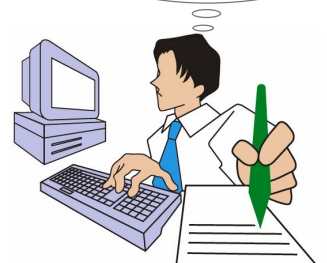
《地域づくりネットワーク福岡県協議会の活動とは？》

会員団体等に対し、次の活動を行っています。

- 1) 地域づくりコーディネーターによる地域づくり活動へのアドバイスや情報提供。
- 2) 協議会会報(本誌)やホームページを通じた広報活動。
- 3) 研修交流会(講演会・パネルディスカッションなど)の開催による、他の地域づくり団体との交流機会の提供。

各団体の活動PRができます！

この助成制度は活用できそうだ！



～イエローカード～

①3分以上話さない！

心理学者によると、頭の中を整理しながら人の話を集中して聞くのは3分が限度だそうです。どんなに素晴らしい人の意見も4分経過すれば、このカードで警告だ！

②足を引っ張らない、批判しない！

最初から「それはできない」「それは無理」など言わず、まずは行動し、汗を流してから意見を述べよ。批判的な後ろ向きの意見には、このカードで警告だ！

③しかめっつらで会議に出ない！

日本人の平均余命(0歳時)は、男25億秒(79.19歳)、女27億秒(85.99歳)で秒数換算すれば意外に短く感じる。3年2ヶ月で約1億秒。10年で3億秒。同じやるなら笑顔を絶やさず、前向きな会議にしよう！しかめっつらで雰囲気壊す人は、このカードで警告だ！

地域づくりのアイディア ～その1～



●地域づくりの2・6・2の法則とイエローカード●

「このままでは、町や地域は衰退していく。何とかしなければ・・・。」 そう、心の中に思っているだけでも、地域での人間関係が気になり、具体的な行動までなかなか到達しないのが現実。「そんなことしたら、周りから何と言われるか心配。お父さん（お母さん）止めて！」地域のためと思っていてもまずは家族が反対する。とは言っても、このままでは地域の将来は危ない。家族の意見を振り切り立ち上がり、新しいことに挑む地域づくりの有志がいる。誰しも良いことだと、心の中では思っている、新しい動きに対する人々の思いはさまざま。

地域づくりの行動を起こす場合、一般的に、賛成・反対はそれぞれ2割いるようである。さて、残りの6割層はどうか。最初は見て見ぬふりをして、しばらくして、勢い付いた方に味方する、フラフラ都合の良い人々。「私も最初からそう思っていました」と言う。そう思っていたら「最初から一緒に行動してよ」と言いたい。

私も含め周囲の地域づくりのリーダーは、最初から必ずしも足を引っ張る2割層を説得しようとはしない。地域活性化の楽しいアイディアを次々に出し、前向きな2割層と一緒に、地域づくり活動を楽しんでいるようだ。日本人の平均余命（0歳時の寿命）は、男約25億秒（79.19歳）、女約27億秒（85.99歳）である（厚生労働省「平成19年簡易生命表」）。

睡眠時間が約1/4とすれば、起きている時間は約19億秒と約20億秒になる。これを短いと見るか、長いと見るかは人によってさまざまだが、有限であることには違いない。人生は前向きに生き、時間は大切にしたいものだ！長期間夫婦喧嘩したり、深く落ち込んでいてはもったいないではないか！その間にも、余命は縮まっているのだから。

時間の経過とともに、生きることに喜びを感じる前向きな2割層の活動は、次第に地域に広がっていく。するとどうだろう。足を引っ張っている2割層は、自身の行動が恥ずかしく思えるようになり、次第に足を引っ張ることを止めるようになる。つまり、見て見ぬふりをする6割層に移動するのである。

元々の6割層は、勢い付いた前向きな2割層から刺激を受け、仲間に入るようになる。結局、前向きな2割層は徐々に人数を増やし勢いを増し、その結果、地域は明るく元気になり、活性化に向かうことになる。

イエローカード

（あいさつ・会議用）



地域づくり支援



←切り取って活用してください。

人間笑えば、体内からエンドルフィンが出て、プラス思考で前向きに行動するようになる。怒ればアドレナリンが大量に出て、動脈硬化を起こし、早死にするという人もいる。いつも怒っている人の近くには、近寄りたくないのが本音。笑顔の人は、キンさん、ギンさん見たいに長生きできるかも。

《地域づくり会議》



足を引っ張る人

地域づくりリーダーには「笑顔」が欠かせない。「笑顔の人には“福”来る！」前向きな2割層の増加で、地域づくりは一気に動き出すかに思えた。しかし現実、そう甘くはない。最後まで足を引っ張る者が、地域に必ず1～2人はいる。その時はこう叫ぼう！「あなたは良いかもしれないが、苦勞するのはあなたの子供、孫、家族や親戚。地域づくりの効果は早くても10年後。あの世で地域づくりをはじめては遅すぎる！肩書き等のプライドを捨て、良いことはみんなと一緒に楽しもう！」

地域づくりで会議を開く場合、会議のルールを決めることが大切。ある心理学者によると、「人の話を頭の中で整理し、真剣に聴けるのは3分が限度」と言う。だから会議での人の話は3分以内。

3分以上しゃべっても誰も聞いていないと思った方がよい！いくら良い話でも3分を越えたら“×”。挨拶の言葉も同様。ウルトラマンが胸につけているタイマーも3分、カップラーメンも3分。やはり3分が集中できる限界。

地域を良くしたいのは全員共通の思い。地域を悪くしたい人なんて基本的にはいないはず。だったら会議では前向きな意見を交わそう。「それは無理！」「それはできない」という言葉は禁句。「こうすればできるかも」「ああすればここまで進む」常に笑顔を保ち、前向きな意見を交わす雰囲気づくりが大切。

不運にも3分以上しゃべる人がいたら、4分経って“イエローカードで警告”。5分経てば“レッドカード”で退場だ。人がやりたくないことを率先して実施したり、素晴らしいアイディアを出した人は“グリーンカード”で褒めよう。ぜひ地域づくり支援カードで、会議を盛り上げようではないか。時間は宝物。

“役人”とは、“仕事や地域で役に立つ人”のことを呼ぶ。“地域の役員”は、住民の幸せを最優先に考える“役に立つ町内会員”のこと。「前例がないから・・・」「去年したから・・・」ついつい、そうした考えになってはいないか。社会は常に変化している。地域で良いモノは残し、時代に合わないものは、変えていく度胸がほしい。今すぐ、評価を期待してもだめ！「オレがやったんだ」と、自慢する人は、そもそもそこまでの人。周りの手柄にするのが、ホンモノの地域づくりリーダーだ！

*文）福岡県地域づくりコーディネーター 今泉 重敏

【発行】地域づくりネットワーク福岡県協議会

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7

福岡県庁 広域地域振興課 地域振興1班

TEL:092-643-3179（ダイヤルイン） FAX:092-643-3164

<http://www.chiikinet-fuku.org/>